

# 1. 調査報告概要表

## 【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年10月11日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2775502194
法人名	医療法人 幸晴会
事業所名	こうせい苑グループホーム
所在地	八尾市北木の本5-6-1 (電話) 072-928-0313
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 19年 9月 20日

### 【情報提供票より】(平成 19年 8月 31日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤	8人, 非常勤 10人, 常勤換算 14.5人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	2階 ~	3階部分

#### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	約22,000円	
敷 金	有 ( 円 )	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	① ( 250,000円 )	有りの場合 償却の有無	① / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400円			

#### (4) 利用者の概要 (平成 19年 8月 31日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	9名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	72歳	最高	95歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 賑生会 今川病院
---------	--------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が運営するグループホームで、デイサービスセンターを併設しています。理念として「施設利用者の意思及び人格・人権の尊重に努めると共に保健・福祉・医療の連携、地域及び地域住民との連携の強化に努め高齢者が地域社会において安心して生活できる様支援致します。又、サービスの担い手が常に誠意をもって質の高いサービスが提供できる様専門性の向上に努めます」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らし続けることを支えていくことを目指しています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、言葉かけや態度は明るくやさしい雰囲気です。母体法人のクリニックと医療連携体制をとり、看護師のサポートが利用者や家族に安心感を与えています。利用者には笑顔が見られ落ち着いた様子で過ごしています。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価で示された事項について改善の取り組みが進み、日中エレベーターの鍵を開錠し、職員の見守りで利用者は自由に外出ができるようになっています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が案を作り、全体会議で全職員の意見も聞きながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は市介護保険課の担当者、地域包括支援センターの職員、民生委員、地域高齢クラブ会長、利用者、家族の参加のもと2ヶ月毎に実施されています。会議では運営状況や利用者の生活ぶりを報告し、地域行事への利用者の参加、高齢クラブとの交流や地域のボランティアの受け入れについて話し合っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が訪問する機会が多く、面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、行事についても写真とともに報告しています。利用者の健康や安全に関わる事項についてはその都度電話で家族へ報告しています。担当のケアスタッフは定期的に利用者の近況を手紙で報告し、フロア毎に季刊誌を発行し、行事や生活状況について写真とともに報告もしています。遠くに住み訪れる機会が少ない家族とは相談して介護記録等を定期的に送付しています。預り金の収支と残高については出納帳に記録し、定期的に家族へ確認してもらい承認を得ています。家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表現するように対応するとともに、ご意見箱も置いて家族の意見を表せる機会を設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議を契機に民生委員の紹介で小学校での「地域ふれあいまつり」に利用者や家族が参加したり、地域の高齢クラブとの定期的な交流が始まっています。高齢クラブの紹介でピアノと歌の演奏会を開催するなど、地域のボランティアの受け入れも盛んになってきています。利用者は地域の防災避難訓練にも参加しています。

## 2. 調 査 報 告 書

(        部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「施設利用者の意思及び人格・人権の尊重に努めると共に保健・福祉・医療の連携、地域及び地域住民との連携の強化に努め高齢者が地域社会において安心して生活できる様支援致します。又、サービスの担い手が常に誠意をもって質の高いサービスが提供できる様専門性の向上に努めます」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らし続けることを支えていくことを目指しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化されホーム内に掲示しています。月例の全体会議やワーカー会議、勉強会で管理者と職員は理念を共有するべく話し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	運営推進会議を契機に民生委員の紹介で小学校での「地域ふれあいまつり」に利用者が参加したり、地域の高齢クラブとの定期的な交流が始まっています。高齢クラブの紹介でピアノと歌の演奏会を開催するなど、地域のボランティアの受け入れも盛んになってきています。利用者は地域の防災避難訓練にも参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項について改善への取り組みが進み、日中エレベーターのロックを開錠し、利用者は職員の見守りで自由に外出ができるようになっていきます。自己評価は、管理者が案を作り、全体会議で全職員の意見も聞きながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市介護保険課の担当者、地域包括支援センターの職員、民生委員、地域高齢クラブ会長、利用者、家族の参加のもと2ヶ月毎に実施されています。会議では運営状況や利用者の生活ぶり、地域行事への参加、高齢クラブとの交流や地域のボランティアの受け入れについて話し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者と市や地域包括支援センターの担当者との意見交換や相談の機会が多く、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問する機会が多く、面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、行事についても写真とともに報告しています。利用者の健康や安全に関わる事項についてはその都度電話で家族へ報告をしています。担当のケアスタッフは定期的に利用者の近況を手紙でも報告し、フロア毎に季刊誌を発行して行事や生活状況について写真とともに報告もしています。遠くに住み訪れる機会の少ない家族とは相談して介護記録等を定期的に送付しています。預り金の収支と残高については出納帳にまとめ、定期的に家族へ報告し承認を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。またご意見箱を設置し、家族の意見を表せる機会を設けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初からのベテラン職員が退職しましたが、新人職員の採用とスキルアップ研修を行うことで、利用者に与える影響は最小限に抑えられています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に対する取り組みは熱心で、法人主催の研修には資格取得支援研修があります。市や大阪認知症高齢者グループホーム協議会の外部研修に参加するとともに、月1回の勉強会として自主的にテーマを決め、伝達研修や介護学習会を実施しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の事業者連絡協議会のグループホーム分科会に参加し地域のグループホームと交流したり、大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入し研修会や意見交換会に出席してサービスの質を向上させていく取り組みをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には職員が家庭等へ訪問したり、利用者・家族がホームに見学したり、数日間の体験入居を行ったりすることにより馴染みの関係を作り、家族や利用者の不安を取り除き、安心して入居しサービスを受けられるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし学び支え合う関係を築くため、それぞれが得意なことを発揮し、ホーム内で役割を持って生き活きと活躍ができるよう支援しています。トランペット奏者だった利用者、鎌倉彫や押し絵の得意だった利用者、詩吟を吟じるのが趣味だった利用者、飲食店で勤務経験のある利用者等、それぞれの分野で体験したことを語る雰囲気作りを支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望に 応えるよう生活歴等の把握に努めています が、意向の把握が十分でなく、把握して いても具体的な思いの実現への支援が十分で ありません。	○	利用者の思いや暮らし方の希望の把握 を的確に行うとともに、実現に向けての 支援が求められます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケ アのあり方について、本人、家族、必 要な関係者と話し合い、それぞれの意 見やアイデアを反映した介護計画を 作成している	利用者の過去の生活歴、現在の暮らしや心身 の状況からアセスメントを行い、医師や看護 師の意見、利用者と家族の意向・願いを反映 した介護計画を作成し、家族の同意も得てい ます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない 変化が生じた場合は、本人、家族、必 要な関係者と話し合い、現状に即した 新たな計画を作成している	介護計画は定期的には3ヶ月毎に、状態の変 化がある時はその都度見直しをすることにな っています。しかし、介護計画上の援助項目 内容と連動しながら定期的にモニタリングを 行い、カンファレンスを行った上で介護計画 の見直しをするという業務の流れが確立され ていません。	○	介護計画の見直しにあたっては、実施し た援助の結果を項目ごとに、なおかつ定 期的にモニタリングを行い、その結果を ふまえてカンファレンスを行い、介護計 画の見直しにつなげていくことが求め られます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を 活かした柔軟な支援をしている	母体のクリニックと医療連携体制をとり、法 人の看護師により、利用者の状態に合わせ必 要な看護を提供しています。また利用者が併 設のデイサービスセンターに出かけられるよ う支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は母体クリニックの医師から医療を受けています。協力病院と連携し夜間や急変時の対応についての体制整備も整っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に看取りを実施しています。今後対応の必要な状況になれば、利用者・家族や医師とホームの間で話し合いの場をもち、医師の助言と指導により対応していく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員による言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。利用者には笑顔が見られ、落ち着いた様子で過ごしています。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと好きなことをしながら暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。特に朝食の時間については利用者の起床時間に合わせ、時間にゆとりをもって対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はホーム独自で調理し、昼と夜については食材業者から取り寄せた食材を使って下ごしらえをし、調理、後片付けにいたる一連の流れを利用者も参加しながら楽しんでいきます。2週間に1回は利用者の希望を取り入れた食事にしていきます。職員は同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しく和やかな雰囲気を作っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は毎日でもゆっくり寛いだ入浴ができています。毎日入浴している利用者もいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中でそれぞれの役割を見つけ、家事を分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。座布団やクッションを作る編み物の得意な利用者や裁縫の得意な利用者、またアイロン掛けの好きな利用者や、テレビでスポーツ観戦を楽しむ利用者を支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や食材の買物に出かけたり、季節によって初詣や花見に出かけたりしています。利用者毎に個別の外出を実施し、外食にも出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項で、日中はエレベーターのロックが外され、利用者は職員の見守りで自由に外出ができるようになっています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルが作成され、民間企業の指導で通報訓練、消火訓練、避難訓練を行い、市の主催の避難訓練に参加しています。食料と水について独自のマニュアルを定め備蓄しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量について記録し、水分摂取量についても目標を定め記録をとっています。栄養バランスについては食材業者の栄養士からアドバイスを受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の花、観葉植物、装飾品や絵画、行事写真が飾られ訪ねやすい雰囲気になっています。明るくて広くゆったりとしたリビング兼ダイニングルームには大きい食卓テーブル、ソファが置かれ畳敷きのコーナーもあり寛げる居場所になっています。窓の外にはバーベキューやパーティができ、菜園もある広い木製床のテラスと連なっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はホームが準備しているベッドのほか、利用者がそれぞれ整理ダンス、収納箱、椅子、机、テレビ台とテレビ、遺影、仏壇、装飾品、家族の写真、手作り作品や小物等使い慣れた馴染みの古い物や生活用品を持ち込み、利用者が安心して過ごせる場所となっています。居室で畳を敷き机で日記を書いている利用者もいます。		